

安岡 一次（やすおか・かつじ）

1、プロフィール

詩人。昭和 20 年代前半から竹内二郎、中村海六郎らと交流。昭和 24 年「榎」をはじめ、「ぱんせ」「寓話」「鰈」「いかるす」を経て「風」同人となる。詩歴は半世紀以上に及んだ。

<生没>

1931(昭和6)年8月 15 日～2003(平成 15)年 10 月 25 日

<代表作>

詩集『挽歌』

<青森との関わり>

青森市に生れる。青森空襲の避難先が黒石市。以来この地で詩作活動をなす。

2、作家解説

昭和 20 年旧制青森中学に入学。この年青森空襲被災。親戚のあった黒石に疎開。そのまま居を同市とし、現在に到る。旧制弘前中学に転校し、同校卒業。黒石市役所に勤務。弘中時代の先輩から文学の感化を受ける。

竹内二郎、中村海六郎らとの交流から昭和 21 年黒石で詩誌「榎(さわら)」が発刊された。これが同人誌となったのが昭和 24 年である。以後黒石の石黒英一(現弘前)藤田勇三郎らとともに、詩作活動を行う。資金難から休刊、廃刊となりながらも、「榎」以後昭和 29 年「ぱんせ」昭和 31 年「寓話」昭和 38 年「鰈」昭和 46 年「いかるす」そして昭和 48 年「風」(平成 13 年 12 月第 78 号発行)へとつづいている。

地方にあって半世紀以上にわたり、詩誌を発行し、詩作を続けた1人である。平成 12 年1月詩集『挽歌』を発行。収載作品は「風」に発表したもので、それ以前

の詩誌発表の詩は含まれていない。この詩集により平成 12 年7月文化振興基金「ともしび」運営委員会(代表境康)から第1回文学賞を受けた。

3、資料紹介

○『挽歌』(ばんか)

図書

2000(平成 12)年1月 15 日

225 mm × 147 mm

昭和 48 年から発行している同人誌「風」に発表した詩 31 編を収める。処女詩集である。評価されることより、とにかく詩が好きで好きでたまらずという気持ちで詩作を半世紀以上続けてきた人らしく、柔らかかで明るさにあふれた油彩画を表紙に採用。